

---

## 中国経済レポート No.50

# 足元の輸入の大幅減少は 中国の経済状態の悪化を示すのか

---

### 【目次】

1. 足元、輸入の弱さが顕著…………… p.1
2. 低下する加工貿易のウェイト…………… p.2
3. 輸入単価の大幅な下落…………… p.3
4. 消費関連の輸入は堅調も資本財関連は弱い動き…………… p.3
5. 輸入の弱さは必ずしも中国経済の悪さを示しているわけではない…… p.7

三菱UFJリサーチ & コンサルティング株式会社

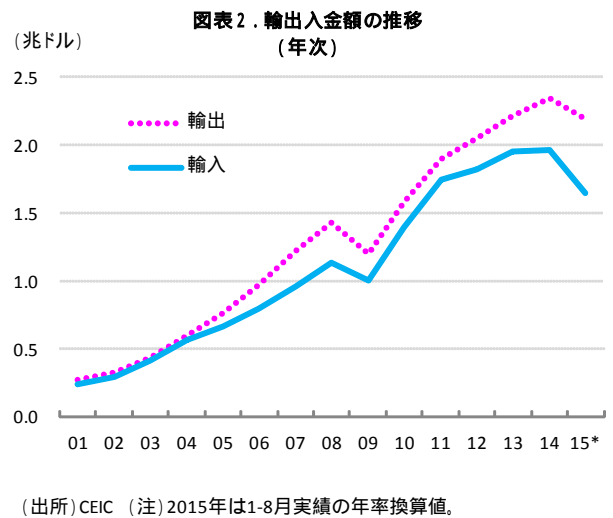
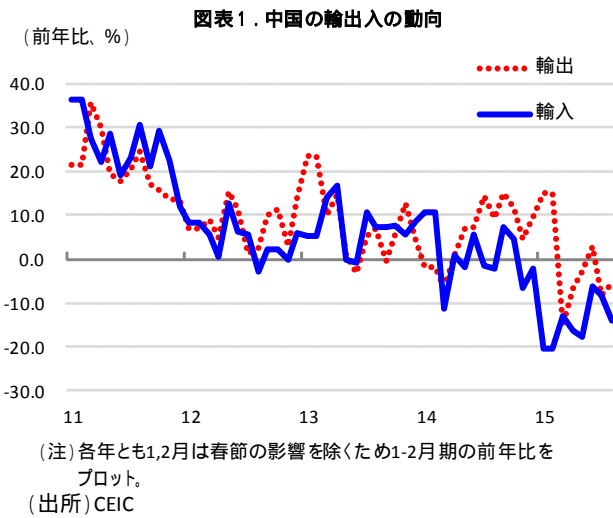
調査部 研究員 野田 麻里子

〒105-8501 東京都港区虎ノ門 5-11-2

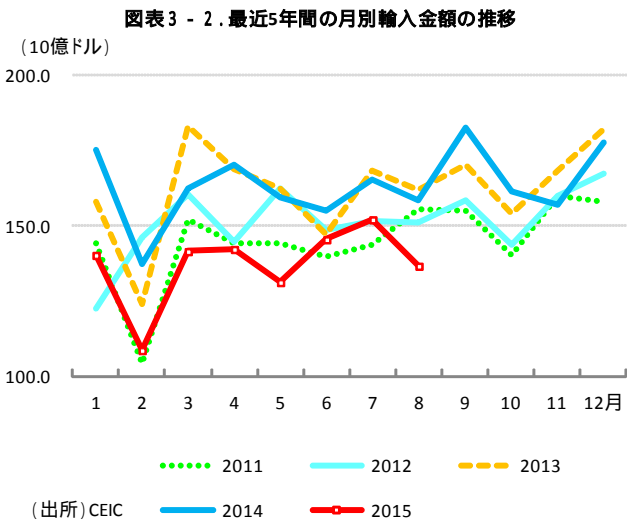
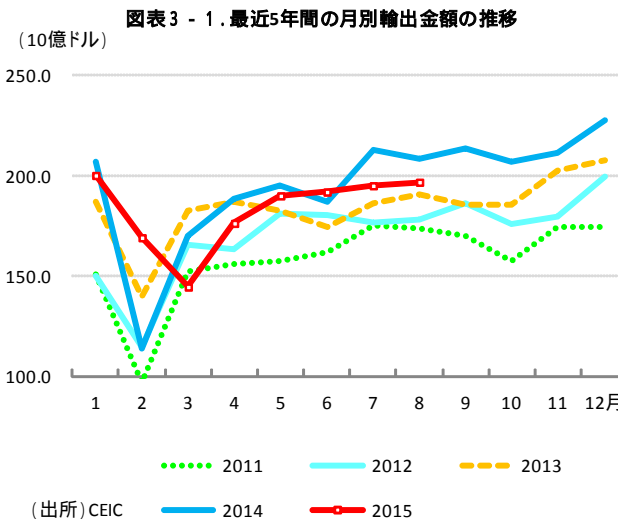
TEL: 03-6733-1070

### 1. 足元、輸入の弱さが顕著

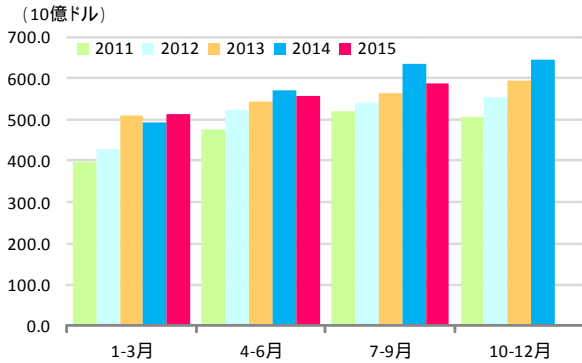
2015年に入って輸出入は弱い数字が続いている(図表1)。輸出金額は3~5月と前年比マイナスが続いた後、6月には一旦、前年比プラスに転じたものの、7月、8月には再び2カ月連続して前年比マイナスであった。一方、輸入金額は2014年11月以降10カ月連続して前年比マイナスとなっている。6月、7月とマイナス幅は一旦、一桁台に縮小したものの、8月には前年比-13.9%と再び二桁台に拡大した。「世界の工場」と呼ばれ、輸出入金額がともに前年比2~3割のペースで拡大していた2000年代前半とは様変わりである(図表2)。



ただし、詳細にみると輸出の前年比がマイナス基調なのは比較対象である2014年の水準が高かったこともひとつの要因とみられる(図表3-1)。実際、今年の輸出金額の水準は、過去5年間の月別推移をみる限り、決して低くない。一方、輸入は比較対象となる前年水準はもとより、過去5年間で最も低い水準で推移している(図表3-2)。月毎のフレをならして、より傾向を掴み易くするために四半期データに置き換えてみると、輸入金額が今年に入って大きく鈍化していることがよくわかる(次頁図表4-1、4-2)。

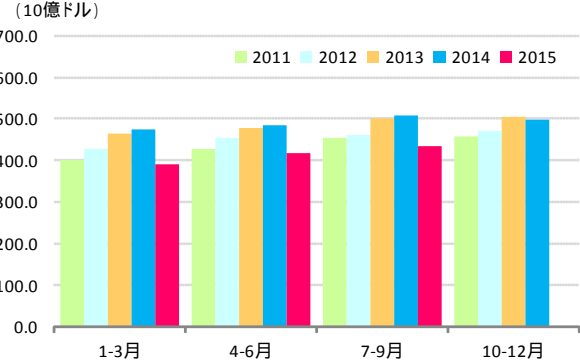


図表4-1. 過去5年間の四半期別輸出金額の推移



(注) 2015年の7-9月期は7-8月実績の四半期換算値。  
(出所) CEIC

図表4-2. 過去5年間の四半期別輸入金額の推移



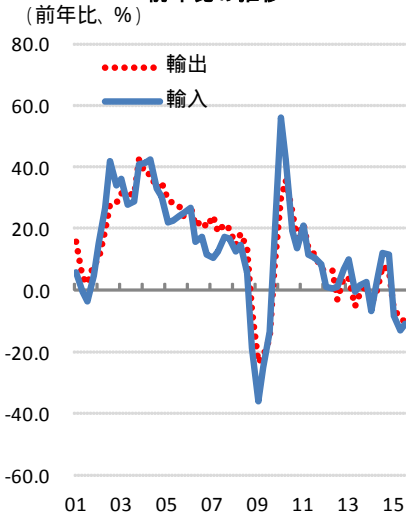
(注) 2015年の7-9月期は7-8月実績の四半期換算値。  
(出所) CEIC

## 2. 低下する加工貿易のウェイト

輸入が弱い要因として、先に輸入業者の資金繰り悪化の問題を指摘したが<sup>1</sup>、一般的には 輸出の不振に連動、国際商品価格の低下、内需不振の3つの要因があげられている。

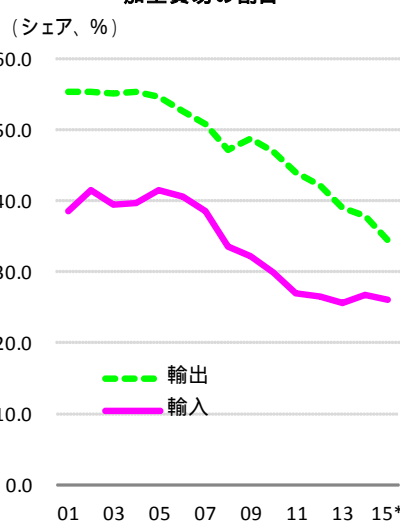
実際、「世界の工場」の呼び名の元となっている加工貿易の輸出と輸入の動きはよく連動している(図表5)。しかし、輸出入それぞれに占める加工貿易の割合は低下傾向にあり、その分輸出と輸入の連動性は弱くなっていると考えられる(図表6)。加工貿易のウェイトが低下しているのは、人件費の上昇や趨勢的な人民元高により生産コストが上昇し、中国製品の価格競争力が低下していることに加えて、産業高度化を目指す政策の一環として、低コスト優位性に依存した加工貿易に対する優遇措置の削減が進んでいることも影響しているとみられる。結果として加工貿易の付加価値率は近年 30%台から 40%台に上昇している(図表7)。

図表5. 加工貿易関連の輸出入の前年比の推移



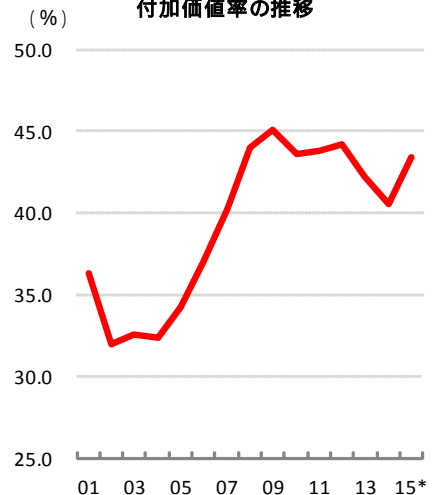
(注) 2015年第3四半期は7-8月実績の前年比。  
(出所) CEIC

図表6. 輸出入に占める加工貿易の割合



(注) 2015年は1-8月実績ベース。  
(出所) CEIC

図表7. 加工貿易の付加価値率の推移

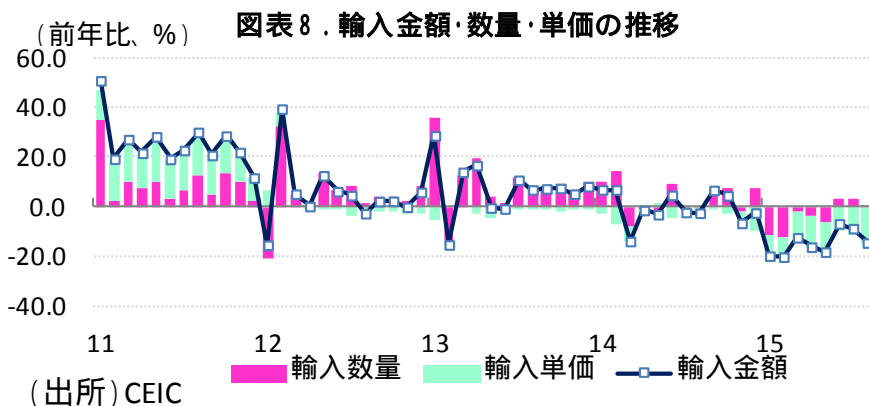


(注) 付加価値率  
= (輸出-輸入) ÷ 輸出 (%)  
2015年は1-8月実績ベース。  
(出所) CEIC

<sup>1</sup>中国経済レポート No. 48「足元の中国の輸入の変調について」(2015年3月26日)

### 3. 輸入単価の大幅な下落

次に貿易指数の推移をみると、2015年に入ってから輸入金額の伸びの大幅な鈍化は主に輸入単価の大幅な下落に因るものであることがわかる（図表8）。品目別（SITC分類に基づく）には金額ベースで輸入の約3割を占める一次産品、中でもその4割と5割を占める原材料と鉱物性燃料の輸入金額の伸び率が単価の大幅下落に伴って大幅に鈍化している。輸入の7割を占める製品についても足元、数量の伸び率が低迷する中で単価の下落が輸入金額の伸び率の不振をもたらしている。中でも製品輸入の15%を占める化学品と軽工業品や鉄鋼などが含まれ製品輸入の13%を占める原料別製品については単価の下落から輸入金額の伸び鈍化が顕著である。これも原料となる国際商品価格の低下の影響のひとつと考えられる。一次産品はもとより、製品についても国際商品価格の下落が輸入金額の伸び率鈍化につながっているようだ（次頁図表9、10）。



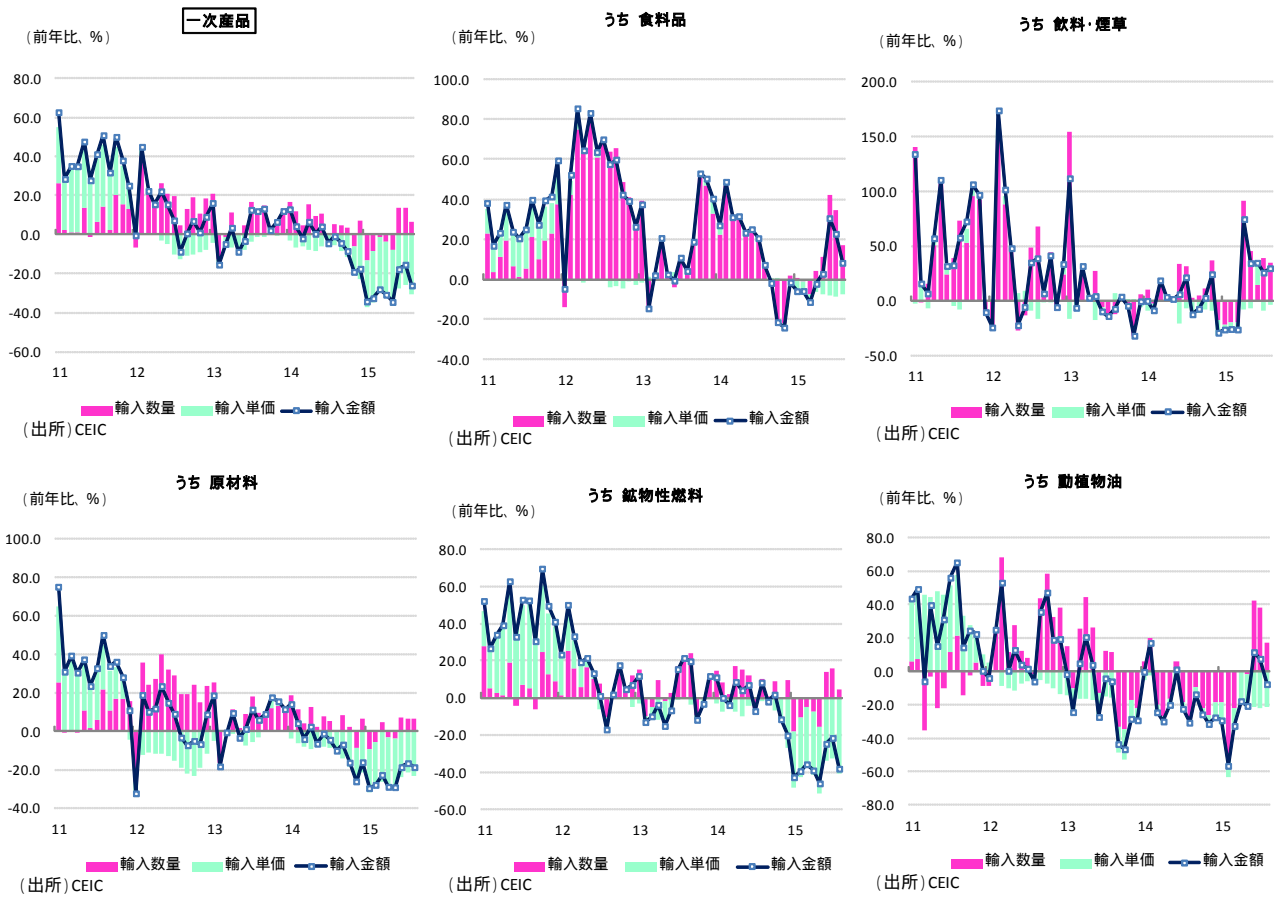
### 4. 消費関連の輸入は堅調も資本財関連は弱い動き

次に輸入数量に注目し、足元の輸入の弱さと内需との関連についてみてみた。次頁の図表9、10が示す通り、一次産品も製品も足元、数量は前年比プラスで推移している。一次産品の中では特に食料品や飲料・煙草は単価の下落幅が小さいこともあり、数量の増加を背景に輸入金額も前年比プラスで推移している。また単価が大幅に下落している原材料や鉱物性燃料で足元、数量が前年比プラスとなっているが、これは価格の低下を背景に備蓄が進んでいる可能性を示唆している。一次産品については単価の大幅な下落がなければ、輸入金額が前年比プラスとなっていた可能性がある。ここでは総じて内需の底堅さが示唆されているようだ。

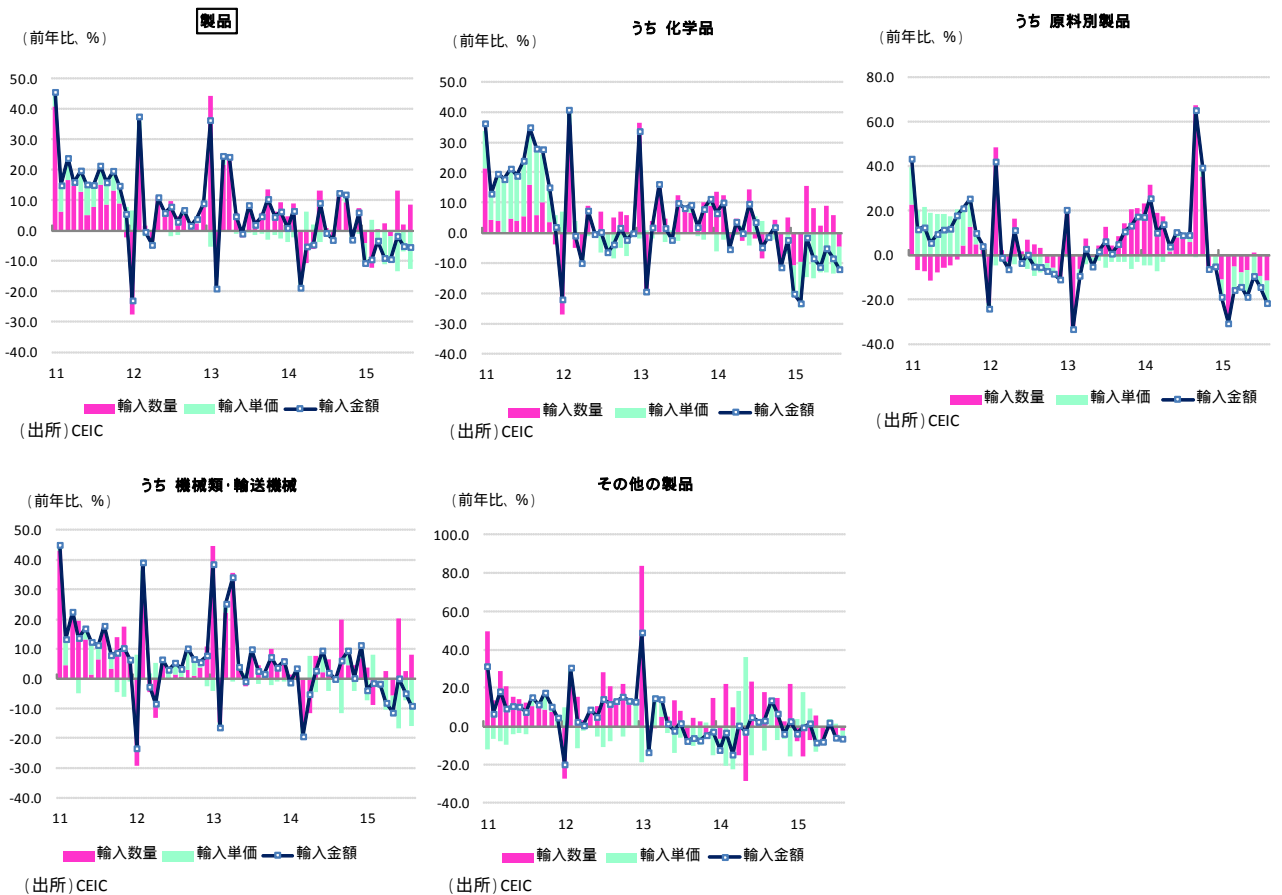
製品については、化学品と機械類・輸送機械の輸入数量は前年比プラス基調にあり、単価の下落がなければ、輸入金額は前年比プラスで推移していた可能性がある。一方、原料別製品とその他製品は数量が前年比マイナスで推移している。その他の製品については、単価と数量の間に逆相関の関係が観察され、足元も単価の上昇が数量の低下をもたらしているようだ。内訳をみると、旅行用具・ハンドバッグ、衣料品、履物などの消費財は単価の下落もあり、足元も輸入数量の拡大が続いている。これに対して、家具は住宅投資の低迷と歩調を合わせるように数量の鈍化傾向が続いており、ここには需要の弱さとの関連が示唆されているといえよう（後掲図表11）。

原料別製品は単価も数量も前年比マイナスで推移しており、内需の不振を示唆しているようにみえる。しかし、内訳をみると、足元、数量を大きく減らしているゴム製品、セメントなどの非金属鉱物、その他金属製品は2014年、あるいは直前に大幅な輸入数量の増加を記録しており、足元の数量減は内需の不振というよりは、反動減とみた方が良いように思われる（後掲図表12）。

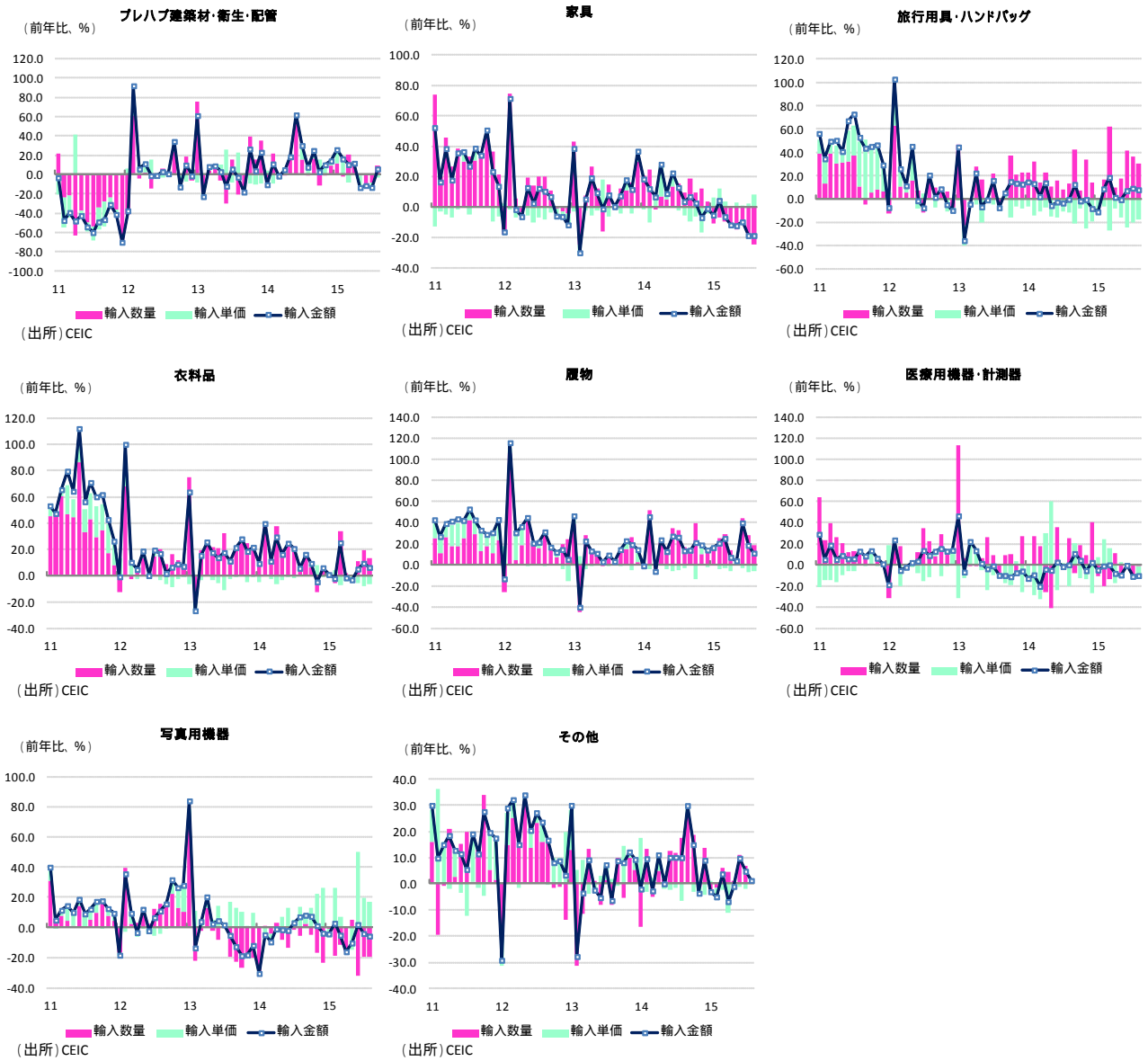
図表9. 一次産品並びに構成品目別の輸入金額・数量・単価の推移



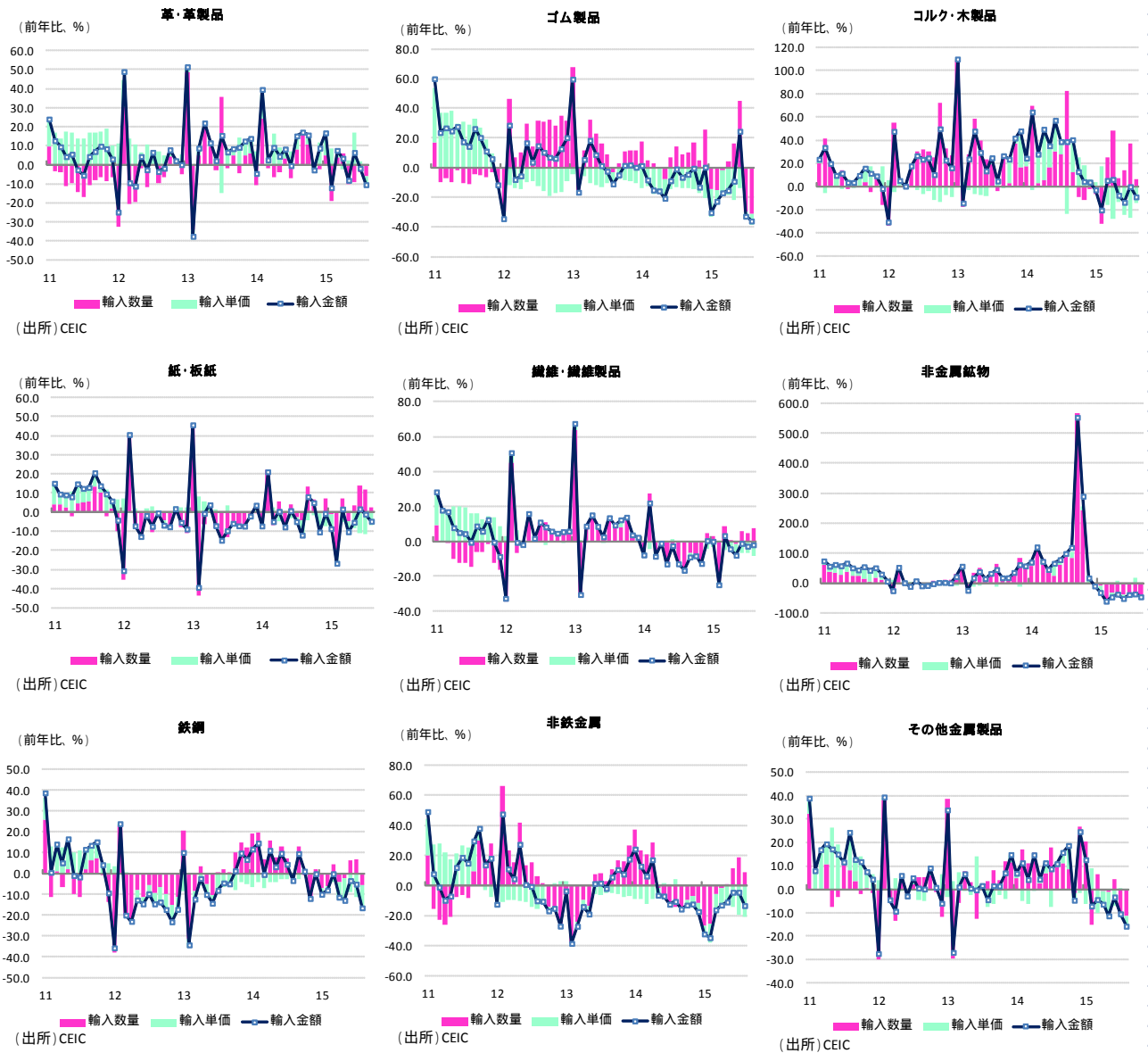
図表10. 製品並びに構成品目別の輸入金額・数量・単価の推移



図表11. その他の製品の構成品目別の輸入金額・数量・単価の推移

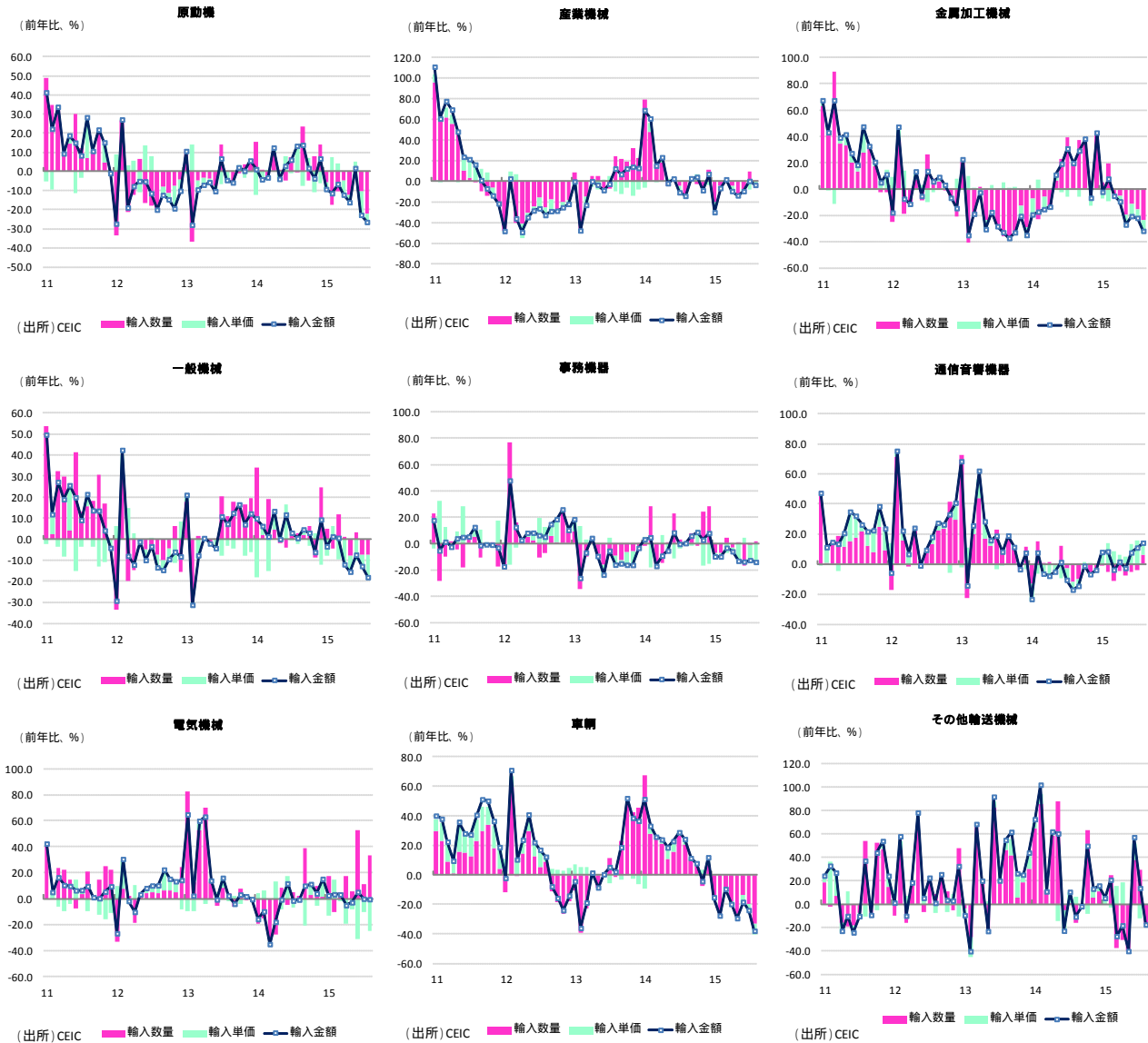


図表12. 原料別製品の構成目別の輸入金額・数量・単価の推移



次に投資需要との関連性が強い機械類・輸送機械の輸入動向についてみてみた(次頁図表13)。機械類・輸送機械は輸入金額ベースでその約5割を占める電気機械の輸入数量が単価の下落もあり、足元大きく伸びていることから、全体の数量は前年比プラスで推移している。しかし、内訳をみると、ウェイトは小さいものの、原動機、産業機械、金属加工機械、一般機械のいずれも足元、数量と単価の両方が前年比マイナスで推移している。輸入代替が進んでいる可能性もあるが、ある程度内需の不振を反映しているとみることもできるだろう。一方、車輛の輸入数量が足元大幅に鈍化しているが、これは内需が弱い中で、2013年以降の輸入数量の大幅増の反動が出ているとみることができよう。

図表13. 機械類・輸送機械の構成品目別の輸入金額・数量・単価の推移



## 5. 輸入の弱さは必ずしも中国経済の悪さを示しているわけではない

以上みてきたように不動産投資をはじめとする投資の鈍化が輸入の鈍化につながっているとみられる品目も確かにある。しかし、総じてみれば、一次産品価格下落の影響がかなり大きく、また消費財の一部については堅調な輸入が続いている品目もあることを勘案すると、足元の輸入の不振を一概に中国経済減速の証左と断じるのは少し無理があるように思われる。一方、政策的に貿易構造の高度化が着実に進んでいることに注目すれば、現状を貿易面における「新常态」に向けた移行過程とむしろ前向きに評価もできるのではないだろうか。国際商品価格の下落が止まれば、輸入金額が拡大基調に転じる可能性もあると考える。

以上



- ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい。